

中学生の「税についての作文」及び、
小学生の「税に関する書道・
ポスター」の募集事業について

次代を担う中学生及び児童の
皆さんに、税を身近に感じ、自
分たちと税がどのように関わっ
ているかを正しく理解してもら
う趣旨から、国税庁・全国納税
貯蓄組合連合会・兵庫県納税貯
蓄組合総連合会等が主体となり
事業を実施しています。

兵庫
県教育
長賞



賀集小6年 繁田千尋

兵庫
県納税貯蓄組
合総連合会
優秀賞



浦小6年 一瀬優



市小5年 鈴木俊丞

公益社団法人
淡路納税協会
会長賞



洲本第二小6年 金崎瞭

淡路納税貯蓄組
連合会
会長賞



松帆小6年 道上愛

近畿納税貯蓄組合
総連合会会長賞

六年 粟 悠希
納税

由良小6年 粟 悠希

兵庫県納税貯蓄組合総連合会会長賞

六年 番所 和奏
完納

洲本第一小6年
番所 和奏

六年 石濱 里茄
完納

大野小6年
石濱 里茄

五年 近本 詩織
納税

大野小5年
近本 詩織

淡路納税貯蓄組合連合会会長賞

六年 柏木 悠
納税

洲本第三小6年
柏木 悠

兵庫県納税貯蓄組合
総連合会優秀賞

五年 大上 凌琥
納税

辰美小5年
大上 凌琥

公益社団法人
淡路納税協会会長賞

六年 岡 洸成
納税

洲本第一小6年
岡 洸成

六年 平野 彩芭
納税

洲本第二小6年
平野 彩芭

六年 勝矢 峻斗
納税

大野小6年
勝矢 峻斗

五年 瀧 陸斗
納税

塩田小5年
瀧 陸斗

六年 日野 奨真
納税

中田小6年
日野 奨真

六年 高浜 楽生
納税

津名東小6年
高浜 楽生

五年 漣 和奏
納税

浦小5年
漣 和奏

六年 井筒 環奈
税金

石屋小6年
井筒 環奈

六年 中井 花
納税

松帆小6年
中井 花

六年 居内 歌音
納税

榎列小6年
居内 歌音

六年 前川 莉乃愛
納税

洲本第三小6年
前川 莉乃愛

六年 脇村 理人
納税

洲本第三小6年
脇村 理人

五年 田尻 藍彩
納税

洲本第三小5年
田尻 藍彩

六年 岡本 愛怜菜
納税

加茂小6年
岡本 愛怜菜

加茂小6年 河野 心咲
納税

加茂小6年
河野 心咲

加茂小6年 中川 惠衣波
確定申告

加茂小6年
中川 惠衣波

加茂小6年 野間 文葉
納税

加茂小6年
野間 文葉

加茂小6年 檀 香音
納税

加茂小6年
檀 香音

五年 平野 一翔
納税

加茂小5年
平野 一翔

六年 大川 華穂
租税

志筑小6年
大川 華穂

五年 川西 由真
税金

学習小5年
川西 由真

五年 引野 桃花
税金

学習小5年
引野 桃花

五年 相田 心温
税金

学習小5年
相田 心温

五年 中野 ほのか
納税

学習小5年
中野 ほのか

五年 折田 和奏
税金

浦小5年
折田 和奏

六年 権田 ひめの
青色申告

一宮小6年
権田 ひめの

六年 奥井 優花
納税

一宮小6年
奥井 優花

六年 英 悠華
納税

一宮小6年
英 悠華

五年 岡本 凌汰
納税

一宮小5年
岡本 凌汰

六年 黒田 小夏
納税

松帆小6年
黒田 小夏

六年 中川 歩菜
納税

松帆小6年
中川 歩菜

六年 西川 綾夏
納税

松帆小6年
西川 綾夏

六年 濱口 柚葉
税金

湊小6年
濱口 柚葉

六年 道上 結愛
税金

辰美小6年
道上 結愛

五年 中山 綸
納税

辰美小5年
中山 綸

六年 有賀 圭佑
青色申告

志知小6年
有賀 圭佑

六年 三明 里緒
納税

榎列小6年
三明 里緒

五年 榎本 光花
税金

八木小5年
榎本 光花

六年 武田 梓芭
電子申告

市小6年
武田 梓芭

六年 榎本 花璃菜
納税

神代小6年
榎本 花璃菜

六年 池尻 蒼
納税

神代小6年
池尻 蒼

五年 出口 真菜
納税

神代小5年
出口 真菜

六年 松原 そら
納税

賀集小6年
松原 そら

六年 江本 霸功
納税

福良小6年
江本 霸功

五年 長尾 果歩
税金

福良小5年
長尾 果歩

六年 和島 宗祐
税金

北阿万小6年
和島 宗祐

入賞作品抜粋「あわじ島税の作品カレンダー（令和4年度版）」を配布します。希望者は淡路納税協会へ。

 **近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞****「今の私が考える税」**

洲本市立青雲中学校 3年 中村 優花

2020年、私たちの生活は、新型コロナウイルスにより、一変しました。感染が拡大していく中で、私は「税」の大切さを以前よりも身近に感じるようになりました。

それは、私の身近なところで新型コロナ対策として税金が使われていたからです。

例えば、学校では、消毒液や来客の方の体温測定器が設置されたり、1人1台タブレット端末が配られたり、各家庭に10万円の給付金が支給されたり、コロナのワクチン接種が受けられたりするようになったことなどです。

今までは、税金は払うイメージのものでしたが、身近なコロナ対策から、いざというときに国民を助けてくれるものというイメージに変わりました。

それと同時に、使えばいいというものではなく、国民から集めた税金を、一番適切なところに使うことが大切ということにも気がつきました。

そう気づいたのは、全国民にマスクを配布する政策からです。ニュースでも批判されていましたが、私のまわりでもつけている人を見たことがなく、無駄だと思ったからです。

新型コロナという非常事態には、パフォーマンスや急いで政策をするのではなく、より速く、より適切に政策をする必要があると思いました。

また、学校から配られた「わたしたちの生活と税」の冊子を読んで、今は歳出が税収を上回る財政赤字という状態だと知りました。しかも、国の財政を家計に例えた場合、毎月20万円も不足していることに、大変驚きました。

私は、おこづかいを使うとき、今あるおこづかい以上は使いません。何でも欲しい物を買うのではなく、どれを優先するのか考えたり、遊ぶ約束や欲しい物の発売前には、計画的にお金を貯めています。

国も限られた税収の中で、今後も国民の生活を守っていかなければなりません。だから、何を優先するのか考えたり、今後に備えて計画的に貯えていく必要があると思います。

税収の一番多い消費税は、私たち中学生も払っています。だから、今私たちが払っている税がどのように使われているのか、ニュースなどで知って関心を持つようにしたいと思います。

そして、18歳になれば、私たちも選挙に参加できるようになります。私も、納税者の一人として、日本の将来を考え、持続可能な社会のために、限られた税をより適切に使う人に投票したいと思います。